

# 里川文化塾

詳細はHPで公開しています。

<http://www.mizu.gr.jp/bunkajuku/>

暮らしとかがわるすべての水循環の経路を、私たちのセンターでは「里川」と呼んでいます。

いろいろな里川を発見しその価値を身近に感じたい！ ということで、2011年度からスタートした「里川文化塾」。「野草探しから草木染め&ガサガサ体験」(7月21日)と「大久保長安—八王子治水とまちづくり」(9月7日)のご報告です。

## 第13回里川文化塾 野草探しから草木染め&ガサガサ体験

会期：2013年7月21日（日）10：00～15：00

フィールド：多摩川河川敷「とどろき水辺の楽校」フィールド

プログラムリーダー：前川 太一郎 ライター・編集者

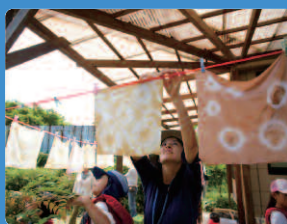
ナビゲーター：鈴木 眞智子さん NPO法人とどろき水辺 理事・事務局

榎本 正邦さん 環境学習指導家 えのきん事務所代表

全長138km、流域面積1240km<sup>2</sup>の一級河川多摩川は、江戸時代から人の暮らしを支える大切な川でしたが、高度成長期に水質が悪化し、生きものが激減。下水道整備などによって水質が改善された多摩川で、お子さんも参加して川に親しんでもらえる企画です。

まずは河川敷で「雑草」をじっくり観察してから草木染めに挑戦。採取したばかりの草ではうまく染まらないため、予め準備していただいたイタドリとヨモギを使いました。

午後は全員でゴミ拾いをしたあと、「ガサガサ体験」。ガサガサとは、川と岸の境目にある草むらのこと。水生生物にとっては身を守るかっこうの隠れ家であり、産卵場所です。一番多かったのが、なんとウシガエルのおたまジャクシで、人間の都合で持ち込まれた外来種が日本の固有種を駆逐してしまう危険性を実感。生態系を守る難しさを学びました。



## 第14回里川文化塾 大久保長安—八王子の治水とまちづくり

会期：2013年9月7日（日）9：30～16：00

フィールドワーク：集合9：30 JR西八王子駅

ワークショップ：13：00～ 八王子市芸術文化会館 くいちょうホール

プログラムリーダー：賀川一枝 機関誌「水の文化」編集長

ナビゲーター：福島忠治さん 大久保長安の会

吉田美江さん 高尾山とんとんむかし語り部の会

鈴木泰さん 浅川流域市民フォーラム、大久保長安の会

ゲスト：諏訪祥子さん 浅川流域市民フォーラム

八王子は、大久保長安（1545～1613年）が家康の関東入府に伴い、武蔵国八王子の所領を浅川の氾濫を防ぐことで、宿場町として興したまちです。午前中は、長安が行なった治水の履歴を歩きました。

長安は全国の金銀山の統轄や、関東における交通網の整備など、江戸幕府の基盤整備に大きな働きをなした人物ですが、死後、不正蓄財の嫌疑がかけられて存在自体が抹殺されていました。没後400年の記念の年である今年、八王子でも知る人が少なかった長安を、八王子のまちづくりの核にしようという動きが高まっています。午後は、地元のみなさんからそんな長安への想い、八王子の魅力についてうかがい、地域活動における「宝の掘り起こし」について学びました。



2013年は、以下の里川文化塾を準備中です。詳細はHPでお知らせしています。

10月18日(金)「拡がる雨水利用」

11月 8日(金)「木版画の魅力と和紙を知ろう」

## ■水の文化46号予告

### 特集「都市的農業」(仮)

消費地近郊にあるという強みや、稲作単一ではなく多品種小ロットが特色の生産形態を〈都市的農業〉ととらえました。〈都市的農業〉は、農業に新風を吹き込むことができるのでしょうか。



## 水の文化 Information

### 『水の文化』に関する情報をお寄せください

本誌『水の文化』では、今後も引き続き「人と水とのかかわり」に焦点を当てた活動や調査・研究などを紹介していきます。

ユニークな水の文化楽習活動や、「水の文化」にかかわる地域に根差した調査や研究などの情報がありましたら、自薦・他薦を問いませんので、事務局まで情報をお寄せください。

### ホームページのお問い合わせ欄をご利用ください

<http://www.mizu.gr.jp/>

### 水の文化 バックナンバーをホームページで

本誌はホームページにてバックナンバーを提供しています。すべてダウンロードできますので、いろいろな活動にご活用ください。

### 里川文化塾レポート詳細版は、ホームページで

里川文化塾のレポート詳細版は、参加できなかった方も楽しめる内容です。今年度の企画についても、詳細は順次ホームページでご案内します。ご注目ください。

### 編集後記

◆ 夏に雪の取材。資料館のかまぐらに入り、利雪住宅の雪貯蔵庫にも。季節感はなくなりますが、雪が年中活用されることは、雪国育ちで良い思い出が少なくない私も有益だと思いついた企画でした。もっと広く知ってほしいと取材してきました。(後)

◆ 豪雪地域には落雪飛距離早見表というのが存在するらしいが、雪の降る地域の苦労がそれでわかる。雪おろしや雪かき、雪崩や落雪などマイナスイメージも多い雪だが、だからこそ利雪が大きなプラスに感じると思う。実際夏場の利雪住宅は快適そのものだった。(新)

◆ 日本の雪国は世界でも特殊な環境であることを、スタッドレスタイヤの開発史を通じて知った。過酷な環境だからこそ生まれる知恵や、その苛酷さをどうにかプラスに転じようとする前向きな情熱も、大いなる「雪の恵み」ではないかと感じた。(松)

◆ 雪をテーマにしたいと何年も思い続けた。学生時代雪山にこもっていた身としては、少しは雪との距離が身近だと思っている。しかしその雪がエネルギーにもなるとは。新しい雪の発見であった。今年もまもなく雪のシーズン。初滑りはいつにしようか。(ゆ)

◆ 「豪雪地帯にこんなにたくさんの方が住むのは日本だけ」という話が印象深かった。地域差はあるが、日本人にとって雪は、やはり暮らしのすぐそばにあるものなのだと思う。育まれてきた「雪の文化」を、これからも大切にしていきたい。(原)

◆ 秋田での2回の取材では、どちらも新幹線が不通になるという事態に見舞われ、自然の力に対する文明の利器の無力さを痛感した。その力を恵みと捉えて利用する手立てが各地で行なわれているが、便利な東京から頭だけで考えることの無意味さも思い知った。(力)

◆ 魚沼市の雪室冷房取材は暑い暑い8月でした。まるで川辺の風のような、あの優しい涼しさが忘れられません。東京で同じことをするのは難しいと思いますが、私も自然の恵みを何か暮らしに生かそうと、菜園で雨水利用を始めることにしました。(麻)

◆ 冷熱エネルギーに蒙を啓かれた。小水力発電と同じ、地域密着・分散型のエネルギーである。そう思って雪山を見ると、黄金の山に見えてくるから現金なものだ。金銭価値や石油の節約としてだけでなく、快適なところもステキ。GO! GO! 雪国。(賀)

### ミツカン水の文化センター機関誌

## 水の文化

第45号

ホームページアドレス  
<http://www.mizu.gr.jp/>

※ 禁無断転載複製

発行日 2013年(平成25)10月

企画協力 沖大幹 東京大学生産技術研究所教授  
古賀邦雄 水・河川・湖沼関係文献研究会  
島谷幸宏 九州大学工学研究院教授  
陣内秀信 法政大学教授  
鳥越皓之 早稲田大学教授

客員主幹研究員 中庭光彦 多摩大学准教授

制作 後藤喜晃 新美敏之 松本裕佳 小林夕夏 原田朱野

編集製作 賀川一枝 編集長 小野田麻里 中野公力 賀川啓明 撮影・デザイン

発行 ミツカン水の文化センター  
〒104-0033 東京都中央区新川1-22-15 茅場町中埜ビル4F  
株式会社ミツカングループ本社  
Tel. 03 (3555) 2607 Fax. 03 (3297) 8578

お問い合わせ ミツカン水の文化センター 事務局  
〒104-0043 東京都中央区湊3-4-10 レジディア10F  
Tel. 03 (3552) 7504 Fax. 03 (3552) 7506